2021 年 3 月 12 日

提案株主様に対する公開質問状

１、柿沼氏の監査等委員選出に関するご質問

株主提案では、柿沼佑一氏（以下、「柿沼氏」といいます。）ご自身を監査等委員へ選出することを提案されております。一方で、柿沼氏は、ユビエンス株式会社（以下、「ユビエンス社」といいます。）と当社を資本提携させる意向であることを2021年２月３日の協議にて明確に発言されており、ラクオリア創薬個人株主のサイトに掲載されている「成長戦略」資料（以下、「成長戦略」といいます。）14ページにも、イオンチャネルと並んでユビキチンプロテアソームに対する低分子創薬を実施することが記載されております。また、柿沼氏が運営するブログ「株投資でマイホーム」（以下、「ブログ」といいます。）の2021年2月16日の「取締役会意見に対する反論等（その５）」に「私が、武内氏を社長候補として推薦したのは、ユビエンス株式会社を創業し、わずか２年ほどの間に、上場企業との提携を実現した行動力や構想力を評価して、また同社とラクオリア創薬との「シナジー」を期待してのことであります。」とも記載されております。ところが、同時に、柿沼氏自身が同社株式を保有している旨の記載が、2021年２月26日に投稿されたブログ「出席制限（抽選）撤廃の申入書の提出」に対する2021年２月26日～27日のコメント欄にてなされています。

上記背景を踏まえますと、当社のガバナンス上、監査等委員としての利益相反の懸念を持たざるを得ません。一般株主の方々が、株主提案を評価するにあたり、潜在的な利益相反リスクを理解するためにも以下の質問にご回答ください。

a. 柿沼氏は、ユビエンス社株式を直接、間接問わず保有していますか。現在保有をしていない場合、過去に保有していたことはありますか。
b. ユビエンス社株式を保有している場合又は過去に所有していた場合、保有期間、保有比率及び出資金額をご教示ください。
c. 当社とユビエンス社との資本業務提携、業務提携、共同研究等も含めた取引に関して、潜在的な利益相反の回避に向けた施策や現時点における対応状況をご教示ください。

２、武内氏の取締役選出に関するご質問

株主提案では、武内博文氏（以下、「武内氏」といいます。）を取締役候補として選出されております。一方で、上記の通り、柿沼氏はユビエンス社と当社を資本提携させる意向

であることを明言されており、成長戦略 14 ページにも、ユビキチンプロテアソームに対する低分子創薬を実施することが記載されております。武内氏がユビエンス社の株式を保有しているのであれば、取締役としての利益相反の懸念を持たざるを得ません。一般株主の方々が、株主提案を評価するにあたり、潜在的な利益相反リスクを理解するためにも以下の質問にご回答ください。

a. 武内氏は、ユビエンス社の株式を直接、間接問わず保有していますか。現在保有していない場合、過去に保有していたことはありますか。
b. ユビエンス社の株式を保有している場合又は過去に保有していた場合、保有期間、保有比率及び出資金額をご教示ください。
c. 今般、仮に株主提案が可決された場合、武内氏は、ユビエンス社の代表取締役を退任されるご意向であるのか、それとも兼任を認めることを申請されるご意向であるのかご教示ください。
d. 当社とユビエンス社との資本業務提携、業務提携、共同研究等も含めた取引に関して、潜在的な利益相反の回避に向けた施策や現時点における対応状況をご教示ください。

３、柿沼氏の競業企業の株式の保有状況に関するご質問

柿沼氏はブログ等において、多くのライフサイエンス関連企業の株を保有されている旨を公言されています。そこで、一般株主の方々が、株主提案を評価するにあたり、潜在的な利益相反リスクを理解するためにも以下について正式にご回答ください。

a. 柿沼氏は当社と技術的な競合状態にある企業あるいは当社と利益相反にある企業の株を保有していますか。

４、ユビエンス社と当社のシナジーに関するご質問

上記の通り、柿沼氏はユビエンス社と当社を資本提携させる意向であることを明言されており、成長戦略 14 ページにも、ユビキチンプロテアソームに対する低分子創薬を実施することが記載されております。また、上記の通り、ブログの 2021 年２月 16 日の取締役会意見に対する反論等（その５）に「私が、武内氏を社長候補として推薦したのは、ユビエンス株式会社を創業し、わずか２年ほどの間に、上場企業との提携を実現した行動力や構想力を評価して、また同社とラクオリア創薬との「シナジー」を期待してのことであります。」とも記載されております。このことから、当社とユビエンスとが資本提携等によってユビキチンププロテアソーム創薬を実施することが、当社にとっての利益になると考えられておられると推察します。一方で、当社ホームページ 2021 年３月５日公開の新経営体制（新

体制）に対するQ&A集その１、Q２−３の回答及び2021年３月10日公開の株主様へのメッセージ動画でも言及した通り、当社ではユビエンス社とのシナジーはないと判断しております。そもそも、ユビキチンプロテアソーム創薬の領域はレッドオーシャンであり、当社が参入すべき領域ではありません。また、仮にユビキチンプロテアソーム技術を導入するとしても、ユビエンス社は提携の対象にはなりえません。加えて、ユビキチンプロテアソーム創薬に当社の低分子化合物創出技術が使えるというだけではシナジーとは呼べません。

以上を踏まえて、以下の質問にご回答ください。

a. なぜユビエンス社と当社とにシナジーがあると考えられるのか、柿沼氏または武内氏のご意見をお聞かせください。

５、成長戦略における黒字化の根拠に関するご質問

成長戦略の13ページには、2022年に第Ⅱ相臨床試験１本と前臨床試験２本を同時に開始させる旨の記載と、ユビキチンプロテアソームの低分子創薬といった新規モダリティに着手する旨の記載があります。しかしながら、これらを実施するためには高額な予算が必要となり、当社の試算では低く見積もっても年間費用は追加で10億円以上発生しますので、仮に事業収益で賄う場合、2022年以降も継続的な赤字が見込まれます。
当社としては、事業活動に支障をきたさぬよう「資金残高30億円の維持」を最優先のKPIとしておりましたが、仮に上記事業計画を進めた場合、「資金残高30億円の維持」を達成することが困難であるばかりか、事業存続性に疑念ありとする「継続企業の前提に関する注記（ゴーイングコンサーン、GC注記）」に至る可能性があります。
他方で、柿沼氏は、SNSやブログ等にて、既存株主が納得しない増資（第三者割当増資）はしないことを、また当社との2021年２月９日の協議において当社の研究部門は縮小しないことを、明確に発言されています。

以上を踏まえて、以下の質問にご回答ください。

a. 株主提案を遂行することによりどの程度の費用が必要だと考えておられるのか、その大まかな内訳をご教示ください。
b. その費用を賄う資金の捻出方法をご教示ください。
c. 上記を踏まえて、2022年の黒字化をどのように達成するのかを明確に示してください。

以上